

---

## 持続可能で安定的な国民健康保険制度の構築について

---

国民健康保険は、国民皆保険の基盤として重要な役割を果たしており、制度の安定化を目的として、公費による財政支援の拡充と併せて、都道府県が市町村とともに運営を行う制度に見直しが行われ、今年度から新しい制度がスタートした。

しかし、依然として国民健康保険制度は、被用者保険と比べ、加入者の年齢構成が高く医療費水準が高いことに加え、加入者の所得水準が低く、所得に占める保険料負担が重いという構造的な課題を抱えており、今後、高齢化の進展、高度な医療の普及等による更なる医療費の増加が見込まれる。

については、新制度の円滑な運営及び将来にわたり持続可能な国民健康保険制度の構築に向け、次の事項について特段の措置を講じられたい。

- 1 新制度の施行に伴う財政支援の拡充について、引き続き確実に実施するとともに、急激な負担の上昇を抑制する「激変緩和措置」に必要な財源を確保すること。
- 2 国の責任において、今後の医療費の増加に耐えうる財政基盤の確立を図ること。